

37. 広島市京橋川の水辺のオープンカフェに関する研究 利用実態と環境特性の関係

05168106 山下祐希
指導教員 市川尚紀 講師

水辺 オープンカフェ 利用実態 環境特性

1.序論

1.1 背景

都市を中心に眺め、眺められる双方向性の景観要素として都市の魅力を豊かにすると考えられ、オープンカフェ、オープンテラスとよばれる飲食店が増加している。近年、広島市では公共空間の新しい活用法として、水辺の利活用を推進する動きが見られるようになった。この動きにより、京橋川右岸の指定された区域内に限って社会実験として民間によるオープンカフェの営業活動ができるようになった(図 1)。このオープンカフェは、河岸緑地に新たに建物を設置する「独立店舗型」と水辺の建物の地先を河岸緑地と一緒に利用する「地先利用型」の 2 種類あり、独立店舗型は全国初の試みである。このプロジェクトでは一定の成功をおさめているが、その一方でさまざまな課題を抱えており、今後の出店計画のためにもこの評価検証が必要である。

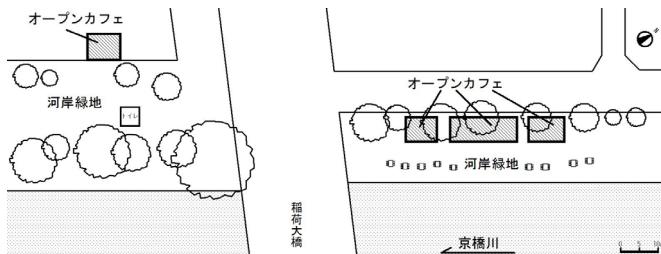


図 1 独立店舗型・地先利用型オープンカフェの配置図

1.2 研究目的

水辺のオープンカフェは、新たな水辺の楽しみ方を創出することができるが一方で、利用者数が天候に大きく左右されるという課題もある。そこで本研究では、京橋川の独立店舗型と地先利用型のオープンカフェを対象とし、その利用実態と環境特性の関係を明らかにすることを目的とする。

2.調査概要

2.1 調査対象

京橋川稲荷大橋の河岸緑地にある独立店舗型 4 店舗と地先利用型 1 店舗の計 5 店舗を調査対象とする。その座席数は、独立店舗型の店内は合計約 60 席、店外は約 50 席である。地先利用型の店内は約 15 席、店外は約 10 席である。

A study on open cafe in waterside in Hiroshima City Kyobashi river
Relation between the use realities and environmental characteristic

2.2 方法

調査方法を表 1 に示す。環境実測は原則晴れの日に行うものとする。実測機器は多機能環境測定器、騒音計、ハンド風向計を使用し、気温、湿度、風速、騒音、風向を測定する。独立店舗型の利用者数の観察は 4 店舗の合計とする。

表 1 調査項目とその方法

調査項目	調査方法	調査日	調査時刻
環境特性	実測	夏 2008/08/10 9/1	12:00-13:00
		秋 10/12 10/24 10/29	15:00-16:00
利用者数	観察	冬 11/30 12/19	19:00-20:00

3.結果

3.1 独立店舗型

(1) 夏の結果

休日の 12 時～13 時では、川に面したテラスで、パラソル内 36.0 ℃、直射日光のあたる位置で、39.1 ℃ であった(図 2)。休日、平日ともに室内は空調設備を使用しておらず、窓を全開にして扇風機を使用していた。パラソル内の気温と店内の気温に目立った差はなく、日中は店内と店外の利用者数にもあまり変化がみられなかった。休日の 19 時～20 時では、風速は 1.2m/s と日中に比べて過ごしやすい環境で、店外の利用者が増加していたが、平日は高湿度で利用者数は少なかった。

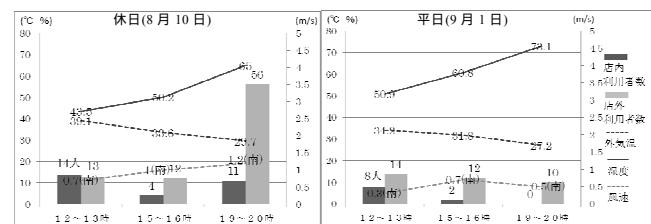


図 2 夏の利用者数と環境特性

(2) 秋の結果

空調設備は使用しておらず、どの時間帯でも店内と店外の気温差はなく、時間帯によっての温度、湿度の大きな変化はみられなかった(図 3)。休日、平日ともに店内の利用者数が店外を上回っていない。休日の 12 時～13 時では、風速が 1.9 m/s あったが店外の利用者は多かった。休日では、時間帯に関係なく安定して利用者数が増加していたが、平日の 15 時～16 時の利用者は少なかった。

YAMASHITA Yuki

環境設計研究室

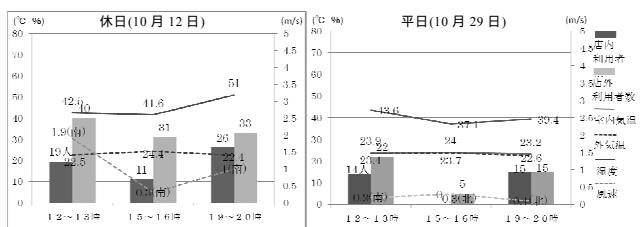


図 3 秋の利用者数と環境特性

(3)冬の結果

空調設備を使用しており、店外との気温差は大きかった(図 4)。また日中の営業では、膝かけや暖房器具で対応しており、店外での夜間の営業は行っていない。12 時～13 時に店外では防寒着を着た利用者が少数みられた。平日の 15 時～16 時では、夏や秋に比べ利用者が減少していた。19 時～20 時では、利用者は店内に集中している。

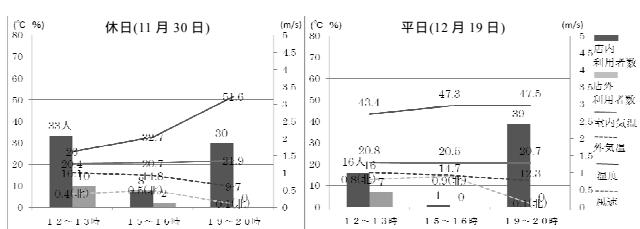


図 4 冬の利用者数と環境特性

3.2 地先利用型

(1)秋の結果

空調設備は使用しておらず店内と店外の気温差はあまりみられなかった(図 5)。15 時～16 時では、他の時間帯とは違い利用者数が安定していた。なお、温度、湿度、風速は時間帯によっての大きな変化はなかった。

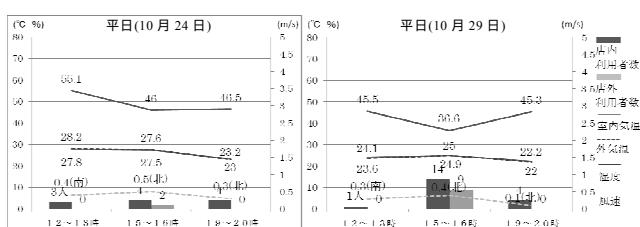


図 5 秋の利用者と環境特性

(2)冬の結果

店内では空調設備を使用しており、店外との気温差は大きかった(図 6)。それにもかかわらず防寒着に身をまとい寒さをしのぎながら店外を利用する人がいた。15 時～16 時では、他の時間帯と比べて店内の利用者が多かった。また、休日の 19 時～20 時では、店外は気温が低く利用者はみられなかった。

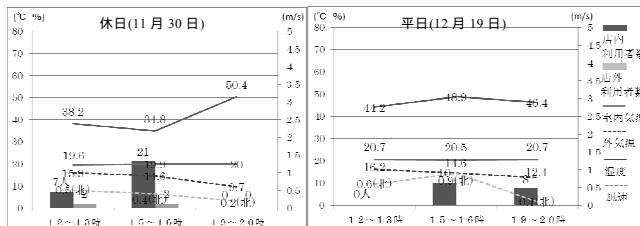


図 6 冬の利用者と環境特性

3.3 騒音、風向

騒音は時間帯によっての変化はあまりみられず、一日を通して 65 dB 前後と、不快と感じることはなかった。一方、風向は変化していたが利用者の増減が大きくみられないことから利用者の動向に関係性はないと思われる。

4. 考察

4.1 季節別利用者数の推移

独立店舗型オープンカフェの平日と休日の合計利用者数を季節別で比較した(図 7)。その結果、秋から冬にかけて店外の利用者が激減していることがわかる。冬の店外では、膝かけや暖房器具で寒さ対策をしているがあまり効果はないと思われる。秋が最も合計利用者数が多く、環境の似た春も同様の結果が得られると考えられる。全体を見て、利用者は店外を好み、夏の暑さには対応できるが、冬の寒さには対応できないと思われる。

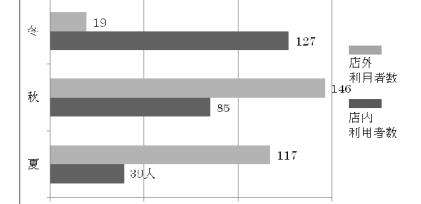


図 7 季節別利用者数の推移

4.2 時間帯別利用者数の推移

独立店舗型オープンカフェの 7 日分の合計利用者数を時間帯別で比較した(図 8)。その結果、15 時～16 時では店外の利用者が多いことがわかる。これは、食事を摂るというよりは散歩の途中での休憩や、オープン空間のためペット同伴での利用、子供連れての利用が多いことが要因と思われる。その他の時間帯では店内と店外の利用者の差はあまりないとことがわかる。

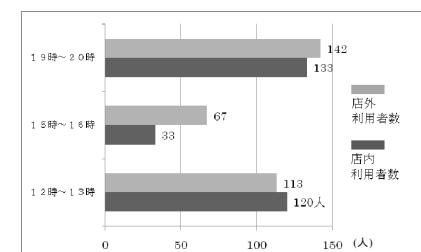


図 8 時間帯別利用者数の推移

5. 結論

水辺のオープンカフェの利用実態と環境特性の関係を把握した。その結果得られた知見を以下にまとめた。

- 1) 利用者は店外を好み、冬は寒さには対応できず店内に集中する。
- 2) 夏の日中と冬の店外の利用者は少ない。
- 3) 15 時～16 時は店外の利用者の方が多く、19 時～20 時は比較的安定して集客可能。

以上の条件の場合に利用者をより多く確保することが課題といえる。

参考文献

- 1) 広島市都市計画局計画調整課まちづくり担当：水の都ひろしまの推進について
- 2) 杉恵頼寧：河川空間利活用のリーディングプロジェクト，日本計画行政学会，計画行政 30(4)，pp.88-95，2007
- 3) 日本建築学会編：水辺のまちづくり，技報堂出版，2008.9